

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人岡山シンフォニーホール	
施 設 名	岡山シンフォニーホール	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	4,575	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	4,575	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オーケストラが繋ぐ 心コミュニティ事業	平成30年4月18日 他	出演：中野振一郎(チェンバロ) アンサンブルミラージュ 他	目標値	2,500
		岡山大学Jホール 他		実績値	3,233
2	シンフォニーは友達！2 018	平成30年8月10日	指揮：中井章徳 管弦楽：岡山フィルハーモニック管弦楽団 バレエ：前田安菜 他	目標値	800
		大ホール		実績値	1,801
3	岡山市 小・中学校音楽鑑賞教室	平成30年6月14日	指揮：村上寿昭 ソプラノ：池田尚子 管弦楽：岡山フィルハーモニック管弦楽団	目標値	3,000
		大ホール		実績値	895
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	6,300
				実績値	5,929

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当館が持っている強み（アコースティックな音響性能に優れたホール）と特色（ホール付きのオーケストラを持つ）を最大限に活用して、事業を組み立てた。

「心豊かな教育への貢献」

未来を担う子どもたちに本物の音楽に触れる機会をつくり、文化芸術の底上げを図るとともに豊かな感性と情操を育むことに寄与する事業として、「小中学校音楽鑑賞教室」（当ホールでのオーケストラ公演）、「ファミリーコンサート（0才からのオーケストラコンサート・真庭市、総社市 計2公演）」、ホールフェスティバル事業「シンフォニーは友達！」を開催。

「社会的包摂の取組推進」

日常的に文化芸術に触れることが困難な人に音楽の魅力を届け、誰もが等しく心豊かな生活を送ることができる社会構築を目指す事業として、医療機関・福祉施設を訪問してのコンサート（4公演）、大学機関と連携した大学構内にある施設でのコンサート（11公演）（「レインボーコンサート」）を開催した。

ミッションやビジョン、地域の特性等に基づいた事業が当初の予定通り展開できており、今後とも様々なステークホルダーと有機的に連携し、社会の多様な世代、分野の誰もが芸術文化を享受できる仕組み作りの強化が求められている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

以下の3点を基本の活動目標とし、事業を組み立て、実施した。

- ・音楽愛好家のみならず、置かれている環境などにより芸術文化に触れる機会の少ない人・困難な人を対象とする活動
- ・通常演奏会には入場できない未就学児をもつ子育て世代に、親子で音楽を楽しむ機会を提供する活動
- ・未来を担う子ども達に最高のホールで本物のオーケストラを聴く機会を提供する活動

医療福祉関係機関との連携による「レインボーコンサート」は、着実に実績が積み重ねられ、実施機関の拡大等、各機関による継続的事業化になりつつある。

「小中学校音楽鑑賞教室」については、対象者拡大のために教育カリキュラムに組み込むなど、更なる教育機関との強力な連携が必要とされる。

ホールフェスティバル事業「シンフォニーは友達！」ではオーケストラだけでなく、ダンス、歌、アート、朗読など、他の実演団体や地域のアーティストと連携しての事業展開が定着してきている。

今後、教育機関や他の実演団体等との連携の強化、事業を更に他の地域にも広げていく取り組みが課題である。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

「オーケストラが繋ぐ心コミュニティ事業」では、参加者数目標を達成(目標2,500人・実績3,233人)。岡山大学Jホールレインボーコンサートでのアンケート(回答者数1,274人・回答率58%)では、鑑賞者の85%が満足だったと回答。また、「前向きにリハビリや治療に取り組もうと思った」など、コンサート前後で気持ちに変化があったと回答した鑑賞者が62%であった。0才からのオーケストラコンサートでのアンケートでは、「2才でいつもはじっとしてられない子どもがとても熱心に聴き入っていた」など、事業の意義を感じられる声が多く寄せられており、事業効果は大きかったと言える。

「シンフォニーは友達！」(ホールフェスティバル事業)では、参加者数目標を達成(目標800人・実績1,801人)。

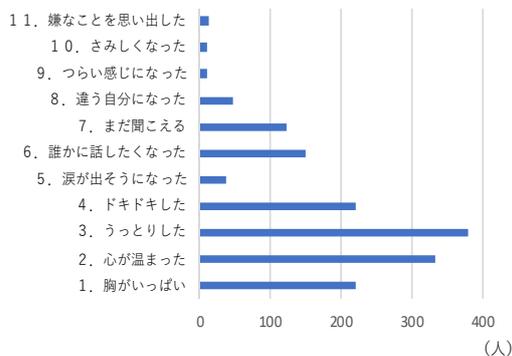
アンケート(回答者数84人・回答率10%)では、「大変楽しかった」・「楽しかった」が86%、「またホールに来てみたい」が89%と、当館に興味・関心を持ってもらうという目標も達成できた。また、「もう一度この曲を聞いてみたくなった」37%、「楽器を試してみたくなった」39%と、実演芸術に対する興味関心も引き出すことができた。

「小中学校音楽鑑賞教室」(大ホールでのオーケストラ公演)では、参加者数目標が達成できなかった(目標3,000人・実績895人)。既に授業や行事予定が飽和状態である学校現場に、どのように事業意義を理解してもらうか、学校側の事務負担や経費負担(当館までの交通費等)問題の解決などが課題である。

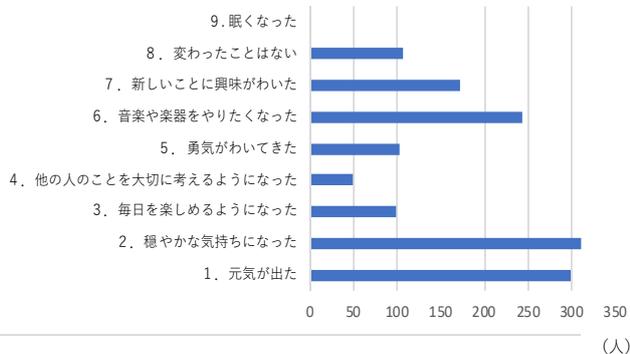
一方で、公演後の教師へのアンケート(12校 25人)では全員が、子どもたちに期待した効果(「子どもたちが表現する楽しさや喜びを実感できる機会となること」など)があったと回答。児童・生徒へのアンケート(下部に一部掲載)からも事業の意義は十分に見られることから、先の諸課題の解決による事業の充実が求められている。

平成30年度 小中学校音楽鑑賞教室 アンケート結果より 抜粋 (回答者:小学生496名 中学生162名 計658名) 回答率95%

1.音楽を聴いて (複数回答)



6.演奏会后、自分の中で変わったこと (複数回答)



【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

各事業とも、企画・立案から各関係機関との調整、広報、アーティストとの打ち合わせなど、本番実施まで概ね計画通りに進めることができた。

事業実施後も、鑑賞者・参加者アンケートの集計・分析や、事業スタッフ間での意見交換など、事業の自己評価および改善を行うことにより、継続的・発展的な事業運営につなげるように取り組んだ。

事業費についても、予算対比約90%と予算内での執行となっており、適切な予算設定のもと、常に執行状況の確認をしながらの事業運営ができた。

収入については、予算の約97%を達成している。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

2,001席の大ホールは、満席時2秒の残響時間を保ちながらも明瞭度を失わない、アコースティックな音響性能に非常に優れたホールであり、リサイタルからオーケストラまでホールがしっかりと楽器として機能してその演奏を支えている。また、ホール付きのオーケストラ「岡山フィルハーモニック管弦楽団」（以下、岡フィル）がホールと一体となって創造活動ができるのが当館の強みであり特性となっている。

オーケストラを文化装置として活用し、舞台芸術の創造・発信、若い芸術家の育成、子どもの情操教育、社会的包摂への取り組みなど、地域の文化拠点として心豊かな社会の構築に取り組んだ。

当館には芸術監督は置いていないが、首席指揮者のもと岡フィルの強化に取り組んでおり、地域からの関心・期待、そして支援の輪も拡大している。

進化しつつある岡フィルを活用しながら、職員の専門性や企画力も磨いており、鑑賞者や依頼者など、対象者のニーズや事業目的に沿った多様なプログラム展開を可能としている。

また、首席指揮者の人脈などを活かした世界一流のアーティストとの共演の機会により、岡フィルの音楽水準の向上と鑑賞者の拡大を図るとともに、地元出身アーティストとの共演の機会を積極的につくることにより、地元出身のアーティストの更なる活躍を支えるとともに、地域での音楽芸術ファン層の拡大を図るなど、ネットワークも広がっている。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当館のホール付きオーケストラ「岡山フィルハーモニック管弦楽団」（以下、岡フィル）は、定期演奏会をはじめ、若い音楽家の育成事業、青少年の情操教育に資する事業、子育て支援や地元演奏団体との共演等、地域における音楽芸術振興の中心的役割を担っている。

日本オーケストラ連盟への準会員加盟(2017年)・首席コンサートマスターの採用(2017年)・全国公募オーディションによる首席奏者の採用(2018年7月・7パート)とオーケストラの改革を進めており、地元新聞メディアにも度々取り上げられるとともに、地元テレビ局RSK山陽放送による1時間のドキュメンタリー番組が放映されるなど注目度が高まっている。

こうした動き・変化を受けて、2018年10月には官民あげての支援組織「岡フィルを育てる会」を発足。音楽文化の魅力・都市ブランドへの貢献を評価し、支援者・鑑賞者が増加しており、地域全体で文化芸術を発展させていく土壌づくりが進んでいる。

また、事業の実施により地元出身のアーティストの人材育成にも取り組んでおり、特に人材養成事業である「I am a SOLOIST」（オーディションにより選出された若いソリストと岡フィルとの共演事業）出身者のフォローアップに力を入れている。

(2018年度実績：普及啓発事業「レインボーコンサート」への出演4名、公演事業「岡フィル第56回定期演奏会」へのソリスト出演1名、岡フィル首席奏者1名)

その他、社会的包摂活動として、自治体やNPO法人等と連携してのひとり親家庭、災害・震災被災者の公演への招待や、病院・福祉施設等での演奏会、鑑賞機会の少ない地域での演奏会の実施、まちづくり・観光・国際交流等の施策と連携した岡山の活性化に取り組む演奏会(街角、スポーツスタジアム、美術館・図書館等近隣の文化施設、日本三名園後楽園など)の実施、SNSや新聞記事等による豊富な情報発信により、地域の文化芸術の発展に努めている。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団では、2019年6月現在で23人の常勤職員（正規6人）を雇用しており、アートマネジメント、舞台技術などの専門職員を複数名擁している。全職員が劇場職員としての専門性を持ち、業務に取り組めるよう、目標管理制度を導入している他、資格取得や講習受講を義務づけるとともに、積極的に各研修会・研究会への参加、他の劇場の視察などの外部研修の場を設け、劇場職員としてのスキルや意識の向上を図っている。

また、朝礼および各セクションのミーティング、部会など、職員間コミュニケーションを密にすることにより、館の運営における各セクションの状況把握による円滑な運営、自主事業の効果的な実施、お客様のニーズの把握と満足度の向上、さらに劇場全体としての方向性の確認などを行っている。

2020年4月には岡山市にある他の文化財団と組織統合する予定で協議を進めており、人的資源やノウハウの共有により、さらなる専門性を持つ機関へと強化していく。

外部との関わりとしては、施設設置者である岡山市の他、岡山県や包括連携協定を結んでいる3市（備前市、真庭市、瀬戸内市）や教育機関（岡山大学、岡山県立大学、くらしき作陽大学等）との連携事業、様々な大学、専門学校からのインターンシップの受け入れ、学校・病院・福祉施設等でのアウトリーチ事業、プロスポーツクラブやまちづくり団体との協働事業など、地域のステークホルダーとの有機的な連携を強化している。

2018年10月には岡山フィルハーモニック管弦楽団の官民あがての支援組織「岡フィルを育てる会」を発足。

民間の賛助会員は、2017年度から2018年度の1年で倍増、岡山市からの負担金も増えており、岡山県との新たな共催事業（県北公演）も2019年度より実施予定である。

交流会等を通して、アーティストと支援者・鑑賞者のふれあいの場も作っており、地域全体で文化芸術を盛り上げ、支えていく基盤作りが進んでいる。

